

80歳の御誕生日を祝寿して 教主様傘寿祝賀



大和の光

7月号

《発行所》

大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話(022-261-2525番)
振替仙台02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋 八咫鏡と太陽を
かたどつたもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

神紋

六月一日、午前五時半より嗣親斎
主にて月始祈願祭斎行、九時より第
一回特別靈能開発講習会を開催。靈
能巫女と審神主(さにわ)役を決め、
審神主役が大神様に夫々のお伺い事
項に添つてお尋ねを申し上げる。次
に靈媒を、実施をさせて頂いた。實
践に入る前に一時間半程基礎講義を
なす。審神主役は嗣親、総長、熊川、
田中、畠山男性教師に、巫女は畠山
真由美、品川弓、須田公子、釣持敦
子、遠藤恭子女性教師とした。審神
主役の男性は常の審神主は初めてで
ある。お互いの靈性、靈力の發揚を
研鑽すべくではあるが、後日、内容
をまとめさせ検分す。意味深なる神
告(みづ)げをも拝した。神告げの
中に、実践すべきは實行に移さね
ばと敬念するものである。

六日の日に、大阪金光教泉尾教会
長の三宅光雄先生が九日の傘寿祝賀
にはどうしても参席叶わざとして、
わざわざご挨拶に来山、参拝なされ
た。一時間程、親しくお話をお聞
き申した。三宅先生のおこころに感
謝申し上げたい。

九日、傘寿祝賀之儀が斎行される。
此度の会は大神様の大御心にての開
催ではある。ご聖務ご繁多のところ
大勢の先生方にご来臨を拝し奉った。
先生方は仙台での六魂祭、東北絆ま
つりが開祭されたことにて不参を余
儀なくされたようである。

主賓の先生方のご挨拶も、出羽三
山神社宮司阿部良一先生、金峯山寺
管長五條良知先生、三千院門跡門主

主にて月始祈願祭斎行、九時より第
一回特別靈能開発講習会を開催。靈
能巫女と審神主(さにわ)役を決め、
審神主役が大神様に夫々のお伺い事
項に添つてお尋ねを申し上げる。次
に靈媒を、実施をさせて頂いた。實
践に入る前に一時間半程基礎講義を
なす。審神主役は嗣親、総長、熊川、
田中、畠山男性教師に、巫女は畠山
真由美、品川弓、須田公子、釣持敦
子、遠藤恭子女性教師とした。審神
主役の男性は常の審神主は初めてで
ある。お互いの靈性、靈力の發揚を
研鑽すべくではあるが、後日、内容
をまとめさせ検分す。意味深なる神
告(みづ)げをも拝した。神告げの
中に、実践すべきは實行に移さね
ばと敬念するものである。

いかに皆んなに喜んでも
らうか、いかに神様に喜
んでいただくか、
その人々と神様の喜びが、
自分の仕合せとなつて
生まれてくるのである。
(大和神典第二之三五三言)

大和の言霊

いかに皆んなに喜んでも
らうか、いかに神様に喜
んでいただくか、
その人々と神様の喜びが、
自分の仕合せとなつて
生まれてくるのである。
(大和神典第二之三五三言)

小堀光實先生、新宗連理事長大慧會
教團會長石倉寿一先生、私の恩師で
ある明治大學體育會合氣道部名譽監
督・小林道場總師範の小林保雄先生、
乾杯のご挨拶を玉光神社宮司本山一
博先生より身に余るお言葉を賜つた。
教信奉者の皆様の温かいお心を賜り、
神人和樂の素晴らしい祝いの集いと
もともと素敵で演奏を楽しませて頂
いた。皆さんもハーピーの音響に感動
なされたようである。

皆さんのおこころを頂いて、私の
これから神明奉仕に大き力を拝し
奉つた。教主としての人生の節目の
儀礼を盛会裡に終わらせて頂いた御
神導、御神助に拝謝すなり。

二十七日、十時よりみやぎ靈園・
大和墓苑にて大和帰神合祀墓の完工
に併う報告を受く、庄子課長より工
事内容について詳しく述べて頂いた。
全てにステンレス棒が埋め
込まれた造型となつてゐる。地
震対様という。前石塔後円墳型の
誠に壯麗にして美型の奥都城となつ
た。カロートの中も特別の清めの施
工とした。地面に山砂、川砂、海砂
を各三センチ程敷き均し、その上に
赤土を敷き更に御祈祷火祭護摩灰を
敷き均し、最後に粗塙を敷くといふ
独特の清めの法の神伝の清めとさせ
て頂いた。

また、この形状はこれまで三基
目となる。一基目は大和墓苑内に我
が恩師半澤家先祖代々之奥都城、次
に開祖保積史子様の奥都城、そして
三番目が大和帰神合祀墓である。報
告を受けた後に、大変立派な出来映
えに感謝を申し上げた。引き続いて
熊川、田中、鏡、畠山君四名にて、
七月七日の竣工・埋納祭の舗設を檢
討検分す。納骨の作法も御遺骸・御
靈石納めの道具を用いて何度も習礼
す。御靈様は必ずや鎮魂なされ、靈
(ひ)の清めをもつての再生甦りと
なるを信念するものであつた。

此の月は特別神事は五座五日の奉
行された。御靈様は必ずや鎮魂なされ、靈
石をさせて頂いた。私の徳積みの神
事ともなん。今月も二大大事の儀式
を奉行、忙しき月となつた。有り難
き事である。

二十三日の第三日目は十時より、
本祭を教主斎主にて斎行す。朝より
小雨がそば降る天の下にてではあつ



令和六年六月二十八日
教主秀胤

たが、天恵の雨となり、天地の清め
とも拝し奉修させて頂いた。御本殿
の儀式後は祈禱殿に移動し御神火で
の幽顯界の清めの神事を執行す。儀
式の中で大神の導きにて、奇毘なる
作法となつた。有り難き式法となり
しに拝謝すればかりであった。儀式後
に教話を申し上げ、直会に入つた。
参行者の教信奉者の皆さんのお顔は清
められし和顔に変化し、神身成就の
姿を觀るものであつた。

二十七日、十時よりみやぎ靈園・
大和墓苑にて大和帰神合祀墓の完工
に併う報告を受く、庄子課長より工
事内容について詳しく述べて頂いた。
全てにステンレス棒が埋め
込まれた造型となつてゐる。地
震対様という。前石塔後円墳型の
誠に壯麗にして美型の奥都城となつ
た。カロートの中も特別の清めの施
工とした。地面に山砂、川砂、海砂
を各三センチ程敷き均し、その上に
赤土を敷き更に御祈祷火祭護摩灰を
敷き均し、最後に粗塙を敷くといふ
独特の清めの法の神伝の清めとさせ
て頂いた。

また、この形状はこれまで三基
目となる。一基目は大和墓苑内に我
が恩師半澤家先祖代々之奥都城、次
に開祖保積史子様の奥都城、そして
三番目が大和帰神合祀墓である。報
告を受けた後に、大変立派な出来映
えに感謝を申し上げた。引き続いて
熊川、田中、鏡、畠山君四名にて、
七月七日の竣工・埋納祭の舗設を檢
討検分す。納骨の作法も御遺骸・御
靈石納めの道具を用いて何度も習礼
す。御靈様は必ずや鎮魂なされ、靈
(ひ)の清めをもつての再生甦りと
なるを信念するものであつた。

此の月は特別神事は五座五日の奉
行された。御靈様は必ずや鎮魂なされ、靈
石をさせて頂いた。私の徳積みの神
事ともなん。今月も二大大事の儀式
を奉行、忙しき月となつた。有り難
き事である。

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましよう

六月九日午前十時、大國神社祈
禱殿において、教主様の龕寿の祝
賀が盛大に執り行われた。教主様
は本年六月十九日に数え八十歳の
お誕生日をお迎えになられる。
斎主嗣親様により教主様龕寿祝
賀奉告祭が斎行された。先ず修祓
之儀の後、斎主拝礼、祝詞が厳か
に奏上された。
次に玉串を斎主嗣親様、教主様
教母様が奉奠され、ご来賓、教信
奉者代表の玉串拝礼を以つて祭儀
は修められた。
次いで、祝賀式典が開式され、
教主様、教母様は大床本座に著か
れ、嗣親様により開式の辞が述べ
られた。



教主様・教母様お揃いでの玉串拝礼



斎主嗣親様による教主様傘寿祝賀奉告祭

來賓祝辭を、出羽三山神社宮司阿部良一先生、金峯山寺修驗本宗管領・總本山金峯山寺管長の五條良知先生、京都大原魚山三千院門生、

次に日本会議の松村俊明事務局長に教主様より献金がなされ、続いて特定失踪者問題調査会の増元照明副代表に「お互いに頑張りましょう。」と労われた。信奉者代表、教師会代表、婦人部代表、青年部代表、総裁家、御孫様達から教主様へ花束が贈呈され、ご家族での記念写真を撮影申し上げた。お孫の愛偉奈さんは中体連の試合にて、どうしても参列叶わざとなつた。



花束を受け取られる教主様・教母様

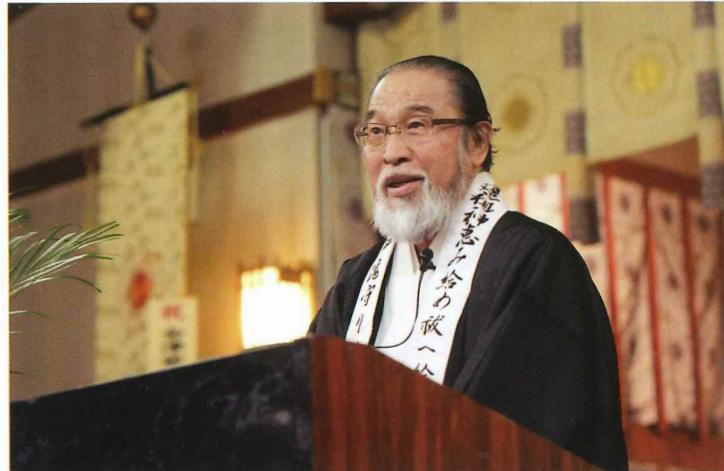
教主様謝辞

ご来賓の皆様方、本日はお忙しい中、こうしてこの御山にご来山を頂きましたこと、心より感謝申します。有難うございます。

ただ今、五人の先生方から身に余るお言葉を頂きました。本当に有り難いことです。

齢八十を迎えて元気で、ご信者の皆さんからも共に喜んで頂ける、私は本当に幸せ者だなと感じております。益々頑張らなくてはと心に誓つております。

皆さんのかうした温かな心をしつ

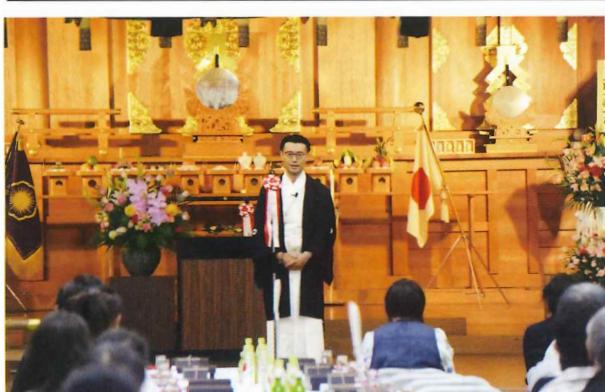


教主様より謝辞を賜る

教主様より謝辞を賜る

代は、先ほどご祝辞を頂きました小林保雄先生に大変お世話になりました。仲間と酒を飲んでは、夜中でも構わずに訪れ、先生ご妻が起きるまで騒ぎたて、近所にも大迷惑掛けました。先生の所に苦情の電話が入り、何とかしてくれと、そんなこともあった様です。やんちゃでよく問題を起し、その度に警察より小林先生に電話をして、めらい下げて頂きました。本当に有難うございました。

今の私があるのは、全て小林先生のお蔭です。そして、私は奥様を女神様と呼びをしておりました。た



嗣親様による祝賀式典開式の挨拶

のです。迷惑をかけることも沢山致しました。だけど温かく優しく包んで頂き、伸び伸びと育てて頂いたのです。そういう青春時代があつたからこそ、気力も体も鍛えられて、今があるのかなと思っております。

迷惑を掛けた分、今、その償いをしております。私は罪の償いを続けておりますが、神様からご覧になられますが、プラスマイナス零になつたのかは分かりません。



教主様は松村俊明様と増元照明様へ社会福祉献金を手渡されお二人を労われた

特定失踪者問題調査会副代表の増元照明様も参加されて声高らかなエールが殿内に響き渡った。

結びに熊川知長祭儀部次長による
弥栄祈念、十一拍手をもつて祝宴は
お披良喜となつた。

かりと受け止めて、これからも神明
奉仕を続けて参りたいと新めて決意
したところでございます。

今迄に培つた修行の力をこれかこ
も多くの人々に、世の中に発揮、貢
献していけたらと願つております。





教主様の傘寿を寿ぎて乾杯



玉光神社宮司本山一博先生より乾杯の発声を頂く

と、この方にもの方にも、あの時もこの時もという、そういうご恩を返しておかなければという人が沢山おられます。私も八十歳ですから、体の動ける時に私の思いの中にある先生方に、人々にその思いを伝えて行かなければと思っております。

どうか皆さん、神様はおわします。仏様もおわします。何時も見ておられるのです。神仏に頼りなさい。そらではありません。自分が生きていくために今苦しみ、悩んでいればこ

そ、親である神様、仏様に縋るのは当たり前なのです。力を頂き、お救して頂きなさい。只管に縋ることで赤ん坊が母親の胸に無防備に縋る。

どうか皆さん、神様や仏様に一所懸命願いなさい。皆子供だから駄目だとは申さないと思います。子供の幸せを望むのは当たり前だからです。神様もご先祖様も皆さんの親だからです。誰にも必ず力のあるご先祖様がおられます。助けを求めるばかりのござ先祖様だけではありません。信じて、信じて、何事があつても必ず縋る。私はそうやって参りました。どんなに苦しくても。だから行ほど尊いものはないのです。只管信じることです。行を続けている者にしか分かりません。口先だけでただ祈るだけではなりません。

行は己でやるもので。感じるのも己。喜怒哀楽、厄介なものですが、そういうものを私たちはずつと心のある限り持ち続けます。心は途轍もない力も發揮します。駄目だと思えば、全て駄目になる。駄目だと思え



和やかに祝宴が開かれた



大和応援団のエールを受けられる力久道臣先生

どうか皆さん、神様や仏様に一所懸命願いなさい。皆子供だから駄目だとは申さないと思います。子供の幸せを望むのは当たり前だからです。神様もご先祖様も皆さんの親だからです。誰にも必ず力のあるご先祖様がおられます。助けを求めるばかりのござ先祖様だけではありません。信じて、信じて、何事があつても必ず縋る。私はそうやって参りました。どんなに苦しくても。だから行ほど尊いものはないのです。只管信じることです。行を続けている者にしか分かりません。口先だけでただ祈るだけではなりません。

何事あつても私は頑張ります。絶対に挫けないで頑張ります。皆さんともに力強く頑張って頂きたいとおもっています。世界までは行けないかもしれないけど、神靈界を覺り垣間見た限りは近づきたいと思っています。だから行を執り続けているのです。



大和応援団より熱きエールが贈られた



大原三千院門跡の小堀門主様とのご歓談



和やかにご歓談されるご来賓の先生方



増元照明様よりの教主様・教母様への熱きエール



大和応援団のエールを受けられる石倉寿一先生



熱きエールを贈られる嗣親様



金峯山寺執行長五條永教先生と五條順顕先生とのご歓談



幻創の半田孝夫さんと南部聰子さんとのご歓談



弥栄祈念十一拍手をもってお披良喜となった

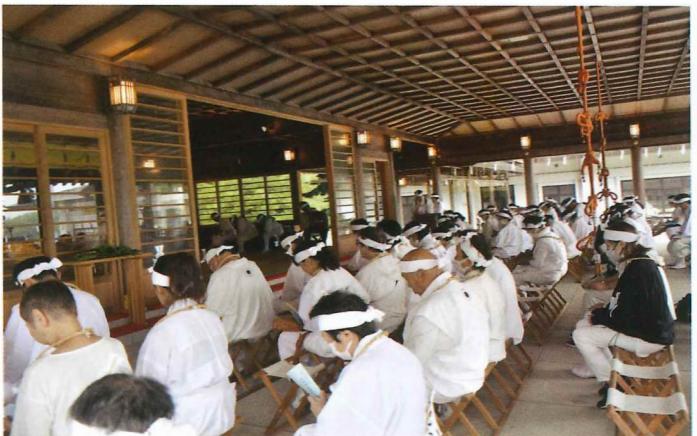


相双分祠田淵要人君を抱擁なされる嗣親様

大和神道禊祭



御本宮にて斎主教主様祝詞奏上



御本殿にて一同祈念を申し上げた

本年の天地一切清浄大神業禊祭は、二十一日午前九時より、斎主教主様のもと御清之儀が執り行われ、大海原綿津見之御神水と天真名井之御神水にて御分霊の各御神像、嚴魂が御一体ごとに清められ、境内摂社末社の祠がお清めなされた。

引き続き、午前十一時より御本宮において、御神前に海川山野の種々の御饗津物が宇豆高く献奉られ、斎主教主様のもと一年の感謝の御祭である還幸祭が斎行された。翌二十二日午前十時より前日祭が斎主教主にて斎行された。

斎主教主により此度の禊祭参行



祈祷殿にて火祭が厳修された

二十三日の本祭は朝より雨天となり、神々の御神意のもと、天の恵み、自然のお清めを賜りながら、御本宮にて祭儀が斎行された。

午前九時三十分、副斎主教主様以下祭員は参進、斎主教主様は東回廊よりご入殿なされた。

典儀にて開祭が言告げされると、斎主教主様は祝詞座に著かれ、参行奉祝詞を申し上げた。大國主大神拝詞・禊誓詞が唱えられ、祝詞が奏上され、御本宮にての祭儀は申し修められた。

斎主教主様以下、祭員退下申し上げ、続いて参列者一同は祈祷殿拝殿へと移動。典儀により天地一切清浄大神業執行の旨が告げられた。

斎主教主様により火祭護摩壇点火

がなされ、御神火は神龍の如く天界に立ち昇った。大床上にては所役に

より、五段の清めが順次執行なされ、

斎主教主様による神直日之神事、第五神

教主様による天之鳥船神事が

この間、忌笛の束を持った祭員によ

り、大海原綿津見之御神水、天真名

井御神水にて参行者の身魂を清め、

井御神水にて参行者の身魂を清め、

教主様による天之鳥船神事が

この間、忌笛の束を持った祭員によ

り、大海原綿津見之御神水、天真名

